



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会
 会長 中村孝也
 仙台市青葉区錦町1-3-9
 （市役所錦町庁舎3F）
 電話 022-224-2581
 FAX 022-302-3406



AIと世界の平和



広報・組織拡充委員長
千葉雅保

あけましておめでとうございます。
 いよいよ年号も間もなく変わりますが、残り少ない「平成」に良き思い出を沢山残しておきたいものです。さて会報発行並びにホームページ改修作業などに携わっておりますが、会員の方々からの話題豊富な活動状況の寄稿やご助言のもと順調に推移しており、改めてご協力に感謝いたします。

ところで昨年晩秋に先端技術開発大手メーカー主催のユーザーフォーラム（於：東京）がありました。毎年欠かさず参加しているのですが、今回のテーマは持続可能な社会のために取り組むべき課題として、「Digital Inclusion デジタルのチカラで、ひとりひとりが輝く社会へ」でした。社会を取り巻く環境が年を追うごとに複雑さと変化のスピードを増しており、予測することはますます難しくなっている実態に対し、SDGs（国連が採択された持続可能な開発目標17）の中の6つのトレンドを取り上げ、起こりうるリスクと機会に対応していく内容でした。【下表】

講演、セミナー、展示会場でのステージや体験デモ等内容が盛り沢山でしたが、ブースの展示はほとんど

がデジタル・ソリューションによるもので、まさにAIの力による多種多様な未来構想が語られ、ハードウェアの製品として目に触れるものが、この数年の間に急激に減ったのが印象的でした。

現代社会の情報伝達もどんどん紙媒体からデジタル・ソリューション化し、まさにWebの世界です。時代の流れの速さ、社会構図の変化の激しさに驚くばかりです。

しかし例えどんなにAI化が進んでも人の心の中までデジタル化するなど考えられません。世界の平和、人類が創造してきた有形無形の遺産そして大自然を守ることの責務がいかに大事であるかを私たちの心の中に一人一人が深く刻み、未来に引き継いでいく活動こそ民間ユネスコ運動の心髄ではないかと思う次第です。

末尾になりますが日本ユネスコ協会連盟の機関紙も2019年度中にWeb配信に決まったそうですので紙面にてお知らせいたします。

連鎖する資源・環境問題	6つの トレンド	可能な都市の模索
個の力の向上と価値観の変容		パワーバランスの変動
テクノロジーの指数関数的進化		多様化する脅威と安全・安心のニーズ

これからの行事と催事

2019年度 総会

■日時：5月30日（木）10時～
 ■場所：ユネスコ事務所

第75回 日本ユネスコ運動 全国大会

■日時：9月7日（土）・8日（日）
 ■場所：東京

民間ユネスコ運動の日

■日時：7月下旬予定
 ■場所：未定

2019年度 東北ブロック・ユネスコ活動研究会

■日時：10月19日（土）・20日（日）
 ■場所：遠野（岩手県）

以下の行事も予定しています

■ユネスコ子どもキャンプ（8月予定）

■ユネスコ子ども絵画展（応募締切：9月）

■ユネスコカレッジ講座（春・秋）

■留学生交流会（12月予定）

会報・HP・フェイスブックなどで随時お知らせいたします。

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年（昭和22年）7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。



10~1月の活動実績



東北ブロック・ユネスコ活動研究会 宮城大会 in 塩竈 ～ 若者に語り継ごう 故郷(ふる里)の遺産 ～

2018/10/13~14



10月13・14日に塩釜市を会場に開催され、地域の文化や世界平和を守る活動(世界寺子屋運動)の報告がありました。当協会からは19名が参加し、青年部員(7名)は受付・誘導の協力を行いました。その青年部の大

学潤さんの感想を紹介します。
私は塩釜出身ですが、海を綺麗にするためのアマモ移植の活動や、和紙から図柄を切り出して神棚に飾る祓ヶ崎稲荷神社(はらいがさきいなりじんじや)の切紙(きりこ)という伝統がある事を小中学生の発表で知り、こんな素晴らしい活動が塩釜で実践されていることに感銘を受けました。また、母校塩釜第三中学校の郷土芸能を久々に見て、懐かしさと同時に後輩達の逞しい姿に胸を打たれました。塩釜は部活動がきっかけで若い世代が郷土芸能の世界に入り、伝統を受け継ぐサイクルが出来ているようでした。

ユネスコも未来にずっと続くように次の世代に伝える事が大事。伝えるツールは様々あるけれど、多くの子どもの心にユネスコの想いを響かせる「子どもキャンプ」は、これからも途絶える事なく続けていきたいと改めて思いました。(大 潤・加藤幸子記)

ユネスコカレッジESD講座 県民大学

2018/10/17~18



左から、
仙台市教育局生涯学習課
専門員 主濱光朗氏
ブラキムラ 木村浩二氏
創作落語家 大友健弘氏

本年のユネスコカレッジは、昨年に引き続き日本遺産『政宗公が育んだ“伊達”な文化』を、10月17日・18日両日に渡り、開催されました。

初日は、政宗公の城下町水路(四ツ谷用水)と明治政府の貞山運河(新堀)について、講師から解説講演いただきました。最後に創作落語家 大友健弘氏の寄席で盛り上がりを見せました。

2日目は、前日講師を努めていただいた木村浩二氏、主濱光朗氏にご案内いただき、実地見学を行いました。実地見学により、改めて政宗公初め、先人の地域計画と知恵を学び、実感する旅となりました。

本年より、ESD(持続可能な開発のための教育)というサブタイトルを掲げた講座となりましたが…。地域遺産を改めて見つめることから、次世代に続く知恵を繋いで行く講座に一層発展するよう努力したいと感じました。多くの方々への参加に感謝!! (村井えみ子 記)

ユネスコスクール 児童・生徒の発表に感無量

2018/11/16



11月16日、「ユネスコスクール東北大会・宮城大会」に初めて参加しました。きっかけは、協会の活動を通して知識を得る楽しさを知り、どの様な形式での発表なのだろうという興味からでした。大会当日は、「ポスターセッション」による発表でした。地域の課題に取り組み解決策の探求発表や、原発の視察から他県交流会を通しての心情の変化など10校の発表でした。堂々とした発表や、行動力の凄さに圧倒されると同時に、私たち大人も学び続ける事の大切さを再認識させられました。その中で「自分は他の人の為に、何が出来るか…。次世代に、より正しい知識を伝える為には、自らが学び続ける。」という言葉に、未来ある子供たちに、陽の光と共に、明るい兆しを感じた瞬間でもありました。未来を担う子供たちにとって、発表の場所は貴重であり、また、自己肯定感を高める意味での出発点でもあると思います。様々な経験を通して「磨けば輝く原石のように」輝き、羽ばたいて欲しいと思いました。(針生真由美 記)

仙台リハビリテーション専門学校 学園祭収益金 今年もご寄付いただきました

2018/12/5



12月5日に仙台リハビリテーション専門学校(仙台北学園)の学園祭収益金を実行委員会の理学療法科2年生渡辺弦輝さんと森山由衣さんが届けて下さいました。

今回で3回目のご寄付で中村会長がありがたく受け取りました。学園祭は10月末に開催し、バザーの売上全額を二つのユネスコ協会に均等に寄付しましたとのこと。一緒に来訪された理事長の大本研二さん(郡山次世代ユネスコ協会会長)は、「来年の宮城ユネスコ子どもキャンプには専門学校の学生も幾人か一緒にできればいいですね、また学園祭には仙台ユネスコ協会の紹介ブースを開くなど相互の交流をしたいですね」と話していました。

(千田 稔 記)

ユネスコ子ども「絵画展」 第21回 絵で伝えよう！ わたしの町のたからもの

2019年1月8日～12日、ユネスコ子ども絵画展 第21回「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」が東北電力グリーンプラザアクアホールで開催されました。

新たに富谷市の応募も加わり、小学校34校・中学校12校の参加があり、241点の力作が集まりました。

1月早々の開催で、準備が12月に集中し、慌ただしい感はありましたが、すべての作品を展示し、子どもたちのメッセージも作品と共にスライドショーで紹介することができました。

遠方からお孫さんの作品を見にいらした方、毎年見に来てくださる方、出品した絵の前で記念撮影していた親子など、多くの方にご来場いただきました。

また、平和への祈りを込めて「折鶴」を折るコーナーを設け、有志の方にご参加いただきました。

最終日に行われた表彰式にも多くの保護者の参加をいただき盛況でした。柴田審査委員長の入賞作品に対する総評を真剣に読んでいた子どもたちの姿が印象的でした。（原 一代 記）



仙台ユネスコ協会賞(中1)



仙台ユネスコ協会賞(小5)



日本ユネスコ協会連盟賞(中3)



仙台市長賞(小6)



仙台市長賞(中1)



宮城県知事賞(小2)



宮城県知事賞(中3)



富谷市長賞(小2)

青年部だより



青年部評議員報告

「フェスタ出展の手引き」の作成を計画、立案に至った経緯は、全青連と私含む各ブロックの青年評議員、日ユ協の青年担当の方々からなる青年情報交換会において、「青年活動のユネスコ内外への広報と青年育成」を各地域で簡単に行えるように出来ないか、という目的から始まりました。東京と大阪開催のフェスタに出展をし、そこで用いた寺子屋運動に関するボードや出展の注意事項などを纏めた手引きを作成することで、他の地域でのフェスタ出展の際に、多少でも労力を削減できるようにいたしました。ボードのデータなどは私に言っていただければすぐ手配できます。手引きを用いて、青年活動の広報の一助となれば幸いです。

一方、先日東京にて開催された評議会にて、青年全国子供キャンプが今年度以降から休止となってしまいました。全国で活躍されている青年の多くが参加し、ユネスコに対してより強い情熱を持つことができたキャンプでしたが、青年のリーダー育成事業としての成果等、様々な要因を検討した結果、開催を休止するという結論に至りました。

しかし、キャンプからユネスコに関心を持ってもらう方が多くいるのも事実。仙台の青年にも全国子供キャンプの経験者や、毎年夏行われる仙台キャンプの参加者が多くおります。そんなキャンプを青年たちの知らないところで無くなってしまっただけでは残念でなりません。つきましてはキャンプに対して、中止すべきかどうかも含めて、大人も青年も関係なく、忌憚なきご意見を頂戴できればと思います。

（東北ブロック青年代表評議員 入江陸太郎 記）

留学生交流会



12月に留学生交流会を行いました。今回新しく青年部のメンバーとなった一年生が中心となって企画を行いました。

日本文化体験ということで、千代紙や折り紙で作品を作ったり、温泉卓球をしたりしました。しめ縄づくりでは、皆さん真剣な表情で縄をなっていた姿が印象的でした。若者文化だけでなく、伝統文化も知ってもらえるいい機会だったと思います。一月にはどんと祭があります。今回参加してくれた皆さんと一緒にどんと祭にも行きたいと考えています。（加藤真衣 記）

秋の懇談会

2018年の9月～12月の青年部の活動は、今年度新たに加わったメンバーの歓迎会、及び留学生交流会に向けての作業がメインでした。

例年この時期は秋の新生活歓迎会を実施し新たなメンバーを募っておりましたが、今年度は宮城ユネスコ子どもキャンプを通して青年部の活動に興味を持ち仲間に加わった者が多かった為、そのような今後の青年部を作り上げる新たなメンバーとの懇談会を設けました。懇談会、留学生交流会の企画・運営を担当し経験を積んだ新メンバーとともに、今後もユネスコ精神の浸透を進める運動を行いたいと考えております。（青年部代表 八木直志 記）

活動報告会・交流会

2018/12/20



12月20日、17時からユネスコ活動の活動報告会が行われました。報告会は会員はじめご家族やご友人を含めて総勢55人の参加でした。中村会長から協会の現状報告に始まり、内藤副会長からSDG s（持続可能な開発目標17項目）とそれを実現するためのESD（持続可能な開発のための教育）について、詳しく説明がありました。もともと『仙台』は『民間ユネスコ運動の発祥の地』でもあり、第一回世界大会は仙台（榴岡公園他）で開催されたことや歴史的な背景についても説明がありました。民間ユネスコ運動の原点は「平和な世界の構築」と「持続可能な社会の構築」の2つのビジョンと5つの重点目標「平和な世界の実現」「ESDの推進」「誰も置き去りにしない社会づくり」「生き生きとした地域社会の構築」「自然災害発生後の教育支援」が採択されています。それを受けて、「ユネスコカレッジESD講座」など積極的に活動に取り入れてきました。

今後の展開として、教育分野での取り組みや市民への啓発活動、経済界との連携なども活発に行い、取り組み自体地球規模の目標ですが、私たち個人・地域を巻き込んだ活動が重要と感じた次第です。

また青年部から子どもキャンプや国際交流会の活動報告がありました。

この後18時から交流会が行われ、自己紹介や自己アピールなど参加者同士の懇親が更に深まり、今後の活動にも期待できる交流会でした。（須佐尚康 記）

東北ESDフォーラム in 岩手

2018/12/21



アイーナ4階の県民プラザから8階までは吹き抜けの空間！シンボルツリーの周りに、SDGsのロゴパネルや活動紹介パネルが展示され、参加者が回遊してフリーセッションを行った

真っ白な岩手山がくっきりと青空に映える盛岡で、「東北ESDフォーラム in 岩手」が開催されました。CSR/SDG s コンサルタントの笹谷秀光氏による基調講演「SDG sを活用した地方創生・日本創生」に始まり、岩手県中小企業家同友会の菊田哲氏による「共学、共育、共生の企業づくり～人を生かす経営を地域の隅々に～」の事例紹介など、企業とSDG s が色濃く出たプログラムでした。加えて主催者である実行委員会の構成メンバーには、NPO 法人環境パートナーシップいわてが入り、クロージングでは岩手県立大学の渋谷晃太郎教授と宮城教育大学の市瀬智紀教授（仙台ユネスコ協会理事）がセッションするなど、多様な内容と陣容であったと思います。

特筆したいのが岩手県立遠野緑峰高校の事例紹介「遠野の宝『ホップ和紙』～強靱和紙の開発と新たな利用価値を求めて～」。全国ユース環境活動発表大会で環境大臣賞（グランプリ）を受賞した取組は、これまででも数々の受賞歴があり産官学民の連携を高校生が牽引している圧巻の内容でした。

会場の「いわて県民情報交流センター アイーナ」は盛岡駅と直結の利便性と、県民図書館や様々な交流に関わるセンターが入居する素晴らしい建物で、パネル展示やSDG s ロゴ掲示団体とを回遊する情報交換・交流セッションの企画も斬新でした。

東北地方ESD活動支援センターの運営も見事で、そのパートナーである「地域ESD拠点」に登録、各地域・各分野で取り込まれるESDを支援する中核的な役割を期待されている我々「仙台ユネスコ協会」の、今後の取組を示唆いただいたと感じました。（ESDプロジェクト担当 内藤恵子 記）

富谷市ユネスコスクール認定証授与式 全校がユネスコスクールに加盟！



11月27日富谷市役所に於いて、ユネスコスクールの認定証授与式が行われました。富谷高と日吉台小はすでにユネスコスクールに加盟していますが、新たに幼稚園2園と小中学校12校が加わり、

富谷市の全校が加盟という快挙となりました。若生市長は当協会の会員（元役員）でユネスコへの深い関心と理解をお持ちで、その成果と受け止めています。

当日は見上一幸顧問が「持続可能な社会の創り手を育成する富谷市」という演題で基調講演を行いました。また中村孝也会長はユネスコスクールのプレートを各校に手渡し、「市長さん始め関係者、特に先生や生徒さんの日頃の取組・努力が高く評価された結果と受け止めて居ます。今日はゴールではなくスタートの記念すべき日です。…ユネスコスクールは教育分野に於けるSDGs（持続可能な開発目標）の推進拠点、中心となる役目を持っています」と祝福の挨拶をしました。当協会からは8名の役員が参列しました。（加藤幸子記）

“11枚の書きそんじハガキでひとりごと月学校に” ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。

書きそんじた郵便ハガキをご寄付ください。送れなかった62円ハガキは1枚につき57円の募金に替えることができ、11枚あつまれば、カンボジアではひとりごと月学校に通えます。ユネスコ世界寺子屋運動にご協力ください。



会員募集 あなたも参加しませんか！

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています！

団体会員（一口）年会費	20,000円
個人会員（一口）年会費	5,000円
青年部会員（一口）年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	104
個人会員	191
青年部会員	23
合計	318

(2018.12.31現在)

【編集委員】

千葉 雅保
神坂 旭
佐浦 公美
戸室 輝信
松良 基広

小泉知加子
岩山 浩一
佐藤 皇季
長本 昭義

【編集後記】

仙台ユネスコ会報459号をお届けします。10月から1月までの活動報告をまとめました。「東北ブロック ユネスコ活動研究会 in 塩竈」を始め「第21回 絵で伝えよう！わたしのまちのたからもの」と毎年開催されている行事を滞りなく行いました。総じてどの活動報告もユネスコ協会が掲げる「平和」と「国際交流」、「地域遺産」に相通づるものがあります。こうした行事にはぜひ時間を作って参加していただければと思います。今後とも、創意工夫して編集していきますのでご協力のほどお願いいたします。（仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子）